

授業改善推進プラン < 数 学 科 >

(数 学) 科における令和7年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

<成果>

- ・定期的な小テスト、単元ごとの確認テスト、各章末の課題解決学習などの実施により、基礎基本の定着や基礎学力の定着が図れた。

<課題>

- ・「図形」、「関数」、「データの活用」の領域で、思考力や判断力を高めることができなかった。

(数 学) 科における調査結果の分析

内容別結果の分析	1 学年：11 内容の 10 内容において目標値を上回った。特に「単位量あたりの大きさ」は目標値を 9 ポイント以上、上回った。「データの活用」は 2 ポイント下回った。 2 学年：7 内容の 2 内容において目標値を上回った。特に「文字式」では 7 ポイント上回った。しかし、ほとんどの内容で 1.5 ポイント程度、目標値を下回った。 3 学年：7 内容の 6 内容において目標値を上回った。しかし、「図形の性質」が目標値を 1 ポイント下回った。
観点別結果の分析	1 学年：すべての観点で目標値を 1 ポイント以上、上回った。 2 学年：「知識・技能」の観点のみ目標値を上回り、「思考・判断・表現」の観点は目標値を下回った。 3 学年：すべての観点で目標値を 3 ポイント以上、上回った。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 学年：「データの活用」に課題が見られるので、身近な現象から数学に紐づけてデータ分析ができるように促す。
- 2 学年：「1 次方程式」「比例・反比例」「平面図形」などに課題がみられるのでプリント教材やまなびポケット等を活用し、基礎的な内容を反復的に取り組んでいく。電子黒板を使い視覚に訴える授業も行う。
- 3 学年：「図形」に課題がみられるのでプリント教材やまなびポケット等を活用し、より発展的な内容にも取り組んでいく。電子黒板を使い視覚的に捉える授業も行う。

(数 学) 科の授業改善策

- 1, 2 学年：基礎基本の定着を基盤とした授業を展開する。苦手な領域に関しては、電子黒板を活用するなど視覚的に捉えたり、問題集やまなびポケット等を用いてスパイラル学習を行ったりして、基礎の定着から発展的な問題まで取り組ませる。
- 3 学年：基礎基本の定着を基盤とした授業を展開する。発展クラスを中心に入試問題等、より発展的な内容にも取り組むことで、更なる学力向上を目指していく。苦手な領域に関しては問題集やまなびポケット等を用いてスパイラル学習をすることで問題に慣れさせる。

